

国立公文書館内閣文庫蔵 特別小図(皇国全図)

日本国地理測量之図および東三十三国沿海測量之図(沿海地図)の二舗を大形の木箱(縦八〇センチ、横六〇センチ程度)に収納する。日本国地理測量之図は、伊能特別小図の周辺に多数の各種数値表を配置したものである。東三十三国沿海測量之図は沿海地図小図の縮尺を1/2にしたものに、数個の数値表を配する。両図とも徳川幕府の紅葉山文庫本と伝える。

日本国地理測量之図 四六八×四三二センチ

紙面の中央に伊能特別小図を配し、周辺に多数の各種数値表を並べた超大形地図。お城の大広間か、寺院の本堂でなければ広げられない大きさである。このような地図を何の目的で作ったか理解しかねる大形図である。日本国一覽図だが、実用にはならないから展示用であろうか。

縮尺1:864,000、他の伊能図とちがい測線を黒線で描く。かつ、測線の屈折点毎に横にケバを出す。山岳等は少数の著名なもののみを記し、山の部分だけを緑で彩色する。全体的には色のない部分が多い。経緯線を太い墨線で描く。方位線はない。国名は朱の二重矩形枠のなかに、郡名はピンクで塗りつぶした楕円のなかに記す。国境は鎖線。宿駅○、城下□、郡界●、湊△、寺院△、がある。その他、地名に●印(沿海、街道)とか黒丸(内陸部)を付した地名が数多く見られるが意味は不明である。文字はあまりうまくない。記号も手書きで上手ではない。全体に描画は粗である。写本。針穴はない。

保存良好、虫食いなし。主要な地点について、図中欄外にその地の経緯度、日本橋からの里程等を記す。描画範囲は蝦夷南東岸まで。

(例) 上総国富津 極高三五度一八分半 経度 何々

日本橋より里程 何々

掲載されている各種数値表の名称をあげる。

蝦夷地船路里程 蝦夷地の数(地点間の距離表)

蝦夷地の数(緯度表) 自松前東海里程

東山道郡名 山岳方位表二表

道路里程表四表 郡邑島嶼異称五表

地名緯度表七表 伊豆国島嶼実測

東海道十五カ国一三〇郡 佐渡国実測

山岳島嶼方位 北陸道 何国何郡

自松前西海路程 奥州蝦夷地距離表

蝦夷地方位表 畿内五カ国五五郡

山陰道八カ国四八郡 南海道六カ国五三郡

西海道九カ国九六郡 島嶼通計

沿海周海里程 湖沼周囲里程

題(識語)は左上部の、大形の枠内にあり、「真形分間之図」という。漢文の楷書体。末尾に 東都楽水堂主人謹題とある。

東三十三国沿海測量之図 二六五×二二五センチ

沿海地図小図の範囲を特別小図の縮尺1:864,000で描き、周辺に凡例と各種数値表を配する。写本。針穴なし。国界―、郡界●、宿駅○、城下□、天測地点☆、および天測した宿駅△、国名(二重矩形枠)、郡名(一重矩形ピンク色)、著名山岳(黄色の矩形上部三角の枠内に名称)、湊、など表示する。

文字は稚拙、彩色は緑(濃緑)が始どなく、著名目標山岳周辺に少しだけ。水色は鮮明。経緯線なく、方位線はある。保存良好で、虫食

い少ない。測線は黒線、測線の上に●、○、等の表示があり描図が粗である。記号（合印）は手書きもあり丁寧でない。折本。裏打ち済み。太鼓谷稲成神社、宮内庁書陵部にも同種類のセットが保管されている。また、日本全図がありながら、沿海地図の特別小図をセットとした意味もよくわからない。

（九五、九、二六 調査 貴重書）

#### 国立歴史民俗博物館蔵 伊能図（秋岡コレクション）について

##### 一、所蔵図の種類と概要

国立歴史民俗博物館所蔵の伊能図八舗はつぎのとおりである。写真と対比して説明すればよいのだが、なかなか機会がなく、頁数の都合もあるので、調査結果だけを列挙する。

（一）寛政一二年上呈の小図 一舗

今井政太郎という人が制作の五年後位に写した写本。針穴はない。

（二）寛政一二年上呈の大図

大田原付近一舗 写本。針穴はない。裏に「第六九下野」とある。

福島より須賀川辺一舗 写本。針穴はない。左下隅に「第五六陸奥」とある。

（三）文政四年中図 中四国

一舗 写本。針穴はない。軸装済み。方位線はあるが、経緯線、

接合記号のコンパスローズはない。国界、郡界、宿駅、城下、社寺の記載がない。

（四）文政四年大図

明石、岡山付近、信州飯山付近の三舗を蔵する。何れも写本。針穴はない。明石と岡山・飯山では、描画様式がことなる。明石は

淡彩で、細かい文字。他は彩色が鮮明で、文字が大型である。

（五）江戸府内図（南部）

汚れ、退色が目立つ。写本。針穴はない。

二、寛政一二年小図 二〇五×一三六センチ

右下隅に「享和元辛酉歳五月今井政太郎之を写す」とあり、隣に黒度は是、朱之度誤り」と記す。経緯線が赤黒二種引いてあり、赤は間違っている。おもうに、はじめから朱で経緯線を引くとは思われないから、黒の線が間違いとして、朱で訂正してみたが、やはり黒でよいと訂正したのではなからうか。

このあたりは、伊能図として問題の部分だから十分な検討を要するが、写した人は天文測量の関係者ではないかと思わせる記事である。旧蔵者の秋岡氏はこのことに触れていない。

描図は粗で、他の写図のような繊細さはない。蝦夷地の彩色に紫が強い。また、蝦夷地では測線の間に宿駅の印を缺んでいる。奥州街道では宿駅、城下の表示を測線の傍らに記すが、フリーハンドで描く。字は大きく上手ではない。コンパスローズは他の図に見られない簡略なものである。

本図は、関係者が自分の覚えのために模写したような感じで、保存目的あるいは命令でおこなわれたものではないようである。

三、伊能中図 中四国の部 二〇二、五×一五二センチ

左縁の部分の一部が滅失している。周辺には汚れが多い。元は折本だったものを軸装している。秋岡蔵書の印の他に記録はない。写本。針穴はない。方位線はあるが、経緯線はない。コンパスローズもない。緑の色調は国土地理院の図に同じである。国名、郡名には枠がない。

国界、郡界の記号、宿駅、社寺、城下、天測点の記号も見当たらない。地名は細字で書き込むが、あまり達筆ではない。全体として完成度は高くないが、文政4年中図の現存数は多くはないので貴重である。

四、寛政一二年大図 大田原付近 一二五×一九四センチ

大田原近くの街道を朱の測線がはしっている。街道筋に並木、家並みを絵画的に描き、田畑の田園風景を書き加える。大田原の城と城下の風景も見られる。写本。針穴はない。裏打ち済み。

領分境、宿駅、天測点の記入がある。その他の記号は見られない。方位線、経緯線はない。緑色は青味が強いが、彩色は鮮明である。地名は岡山付近の大図と同様な大きな文字で書き込む。汚れ、虫食いが少しあるが目立たない。

五、寛政一二年大図 福島より須賀川付近 一二四×一九四センチ

大田原付近と同系統の描図。写本。針穴はない。領主名、宿駅、天測地点と沿道風景を描く。郡界は、○○郡・△△郡境と文字で示す。文字は大きめ、傷みはひどくない。方位線、経緯線はない。コンパスローズが多く六個もある。左下隅に「第五六陸奥」とある。元折本。裏打ち済み。

六、文政四年大図 明石 一二三×一五七センチ

やや退色があるが鮮明で、美麗。彩色は淡彩。針穴はない。写本。来歴を推測できるような書き込みはない。朱の測線に沿って、地名、宿駅○、天測地点☆、湊♣、神社ハ、寺院△、田園風景(森、田畑)を描く。方位線、経緯線はない。国名、国界、郡名、郡界もない。また、明石、岸和田等城下には城の景観を墨絵的に描くが、領主名はな

い。河川は川幅を持たせて、小河川まで丁寧に描く。山景はグレーがかった緑。地名の文字は細かい。

七、文政四年大図 信州・飯山辺り 一四五×一二四センチ

明石の大図とは別系統の図。緑色が東博中図と同じで、濃い彩色。地名の文字が大形で地図のなかで目立つ。領主名を記入。城下では城の絵が目立つ。経緯線、方位線はない。針穴のない写本。宿駅の○印がやや大きく、天測地点☆の記入がある。沿道風景を田園風に描く。沿道に見える主要な山岳をリアルに描写し、山腹には樹木を配し、個々の山名も記す。国名、郡名はない。虫食い、汚れがある。元折本。裏打ち済み。

八、文政四年大図 児島湾 西大寺 一二五×一八五センチ

飯山の大図より文字はさらに大形で、景観を達筆な文字が覆う感じがする。天測地点☆、宿駅○の表示があり、ほとんどが池田藩領だが、他の領主名も見られる。緑色は明石図と飯山図の中間的で、東博中図より若干黄味が少ない。沿道風景描写は他図に同じ。三枚の大図のうちでは、最も彩色バランスが良い。写本。針穴はない。虫、傷は少ない。経緯線、方位線、国界、郡界はない。元折本。裏打ち済み。

九、江戸府内図 (南部) 二〇二×三一五センチ

写本。針穴はない。汚れ、カビの跡が多い。特に周辺部は良くない。退色も進んでいる。地図自体は江戸図の形式を備え、文字も良い。丁寧に制作されたもの。保管が悪かったのは残念である。裏打ち済み。  
(九五、九、二二、調査)

貴重書扱いで、事前申請して熟覧を認められる。大型の桐箱（フタなし）に収納する。高橋景保からシーボルトに渡されたが、取り返したといわれている図である。表題は蝦夷図とあるのを朱で日本図と訂正している。縮尺は小図の1/2の、1:864,000で、樺太から九州まで日本全土を三枚でカバーする。

(一) 蝦夷地図 一三〇×一一四センチ

北海道、樺太ならびに樺太対岸の黒竜江河口付近を描く範囲とする。地形は不正確である。樺太の緯線は、地形上北緯50度あたりと思われる付近に48度線がある。北海道の地形は現在の地図とはかなり違っている。

内陸部を貫通する測線が数本あり、針穴も明らかである。作成時期は最終版完成後と考えられるので、地形が異なるのは納得できないが、測線は最終版より詳細である。間宮林蔵の測線を追加したのであろうか。北蝦夷（樺太）も含めすべてに針穴があるところを見ると、忠敬と同じ方法で下図を書き、これを転写したと思われるが、誤差が大きすぎる感じである。

地名はカナ書きで、河川は支流まで詳細に記入する。主要な河川沿いに測線が走り、河川の縁に沿って地名が並んでいる。舟で遡上したのであろうか。経緯線は太めである。方位線はない。測線は細い。山景の緑は東博中図の色と同じである。カナ文字は細字。宿駅、国名、国界、郡名、郡界等は記入しない。黒竜江河口付近も詳しく踏査した様子で、測線が走り、地名が詳しい。

虫食い・傷みは殆どない。忠敬の測量部分以外についても針穴

は鮮明である。裏打ち済み。

(二) 西日本図 一三〇×一一四センチ

描図は他の伊能特別小図に同じである。経緯線がある。経線の中度は京都とする。方位線はない。虫食いなく、針穴は明瞭である。カナ書きの地名の楷書は達筆である。

測線は朱の極細で、省略せずに総てを網羅する感じである。郡名は黄色の楕円内に漢字。国名は四角の枠内に漢字。ともにカナは振らない。宿駅、郡界はなく、著名な山岳のみを描いている。

国界の黒線が目立つ。主要河川を描くが、河川名はない。九州の幅は広いので、九州測量後の製作である。

(三) 東日本図 一三〇×一一四センチ

全体に西日本に比し、書き込みが粗である。地名が荒い。測線はすべてを描いている。針穴明瞭、文字達筆である。

(九五、八、二四、調査)

